

45. 日本人女子(6才~17才)の人体比例について

お茶の水女子大 ○須貝 容子
柳沢 澄子

1. 人体比例に関する調査研究は人類学の立場からだけでなく、服飾意匠の基礎研究としても重要である。既に断片的に報告した資料を用い、今回は総括して考察を試みた。

2. 計測は1957~60年に行なったものである。被検者は東京都内の公立学校に在籍する健康な女子 1,200名である。項目は身長・指極・全頭高・肩峰高・胴高・膝高・上肢長・下肢長・足長並びに身長に対する示数、計17項目である。計測方法は胴高以外は Martin 氏の教科書に準じた。

3. 9項目のうち、頭高は既に6才で成人値の88%に達しており、その後は直線的に漸増する。他は10~11才において最大増加率を示し、S字型曲線をなしている。そのうち膝高・足長は13才、下肢長は13~14才で成人値に達しているが、一方指極・上肢長の成長はかなりおくれる。

比胴高・比膝高・比上肢長・比下肢長並びに頭身示数は11~14才で最高となり、その後は僅かに減少する。比頭高と比足長とはほぼ並行するが、両者とも10才までは成人値をはるかに上まわり、13才以後は下まわりという特徴ある動きを示している。

以上のように、身体各部位は成長の速度が異なるので人体比例は年齢により異なる。示数値を用いて7才・10才・13才・16才の人体比例図を描いてみた。